



2024

学校だより 本荘 Smile

令和6年度 第18号
令和6年9月2日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

2学期スタート。始業式は「和」についてのお話でした。



あっという間に、夏休みが終わってしまった感があったのではないのでしょうか。加えて、2日間の台風による休校。各ご家庭におかれましては、お変わりはありませんでしたでしょうか。やっと2学期が始まりました。保護者の皆様、丸々1カ月間以上も、ご協力ありがとうございました。また本日から、こどもさんたちをお預かりいたします。

この2学期はこれまでよりも余裕を持ったスタートができそうです。1学期に運動会を終えていますので、例年のような暑い中での運動会練習はありません。2学期は、6年生の修学旅行をはじめ、各学年の見学旅行、そして、久しぶりの学習発表会等を計画しております。こどもたちの頑張りに期待したいところです。また、本日は、始業式を行ったのですが、暑い中でもこどもたちは立派にお話を聞いてくれました。さすが、本荘っ子たちだと感心したところです。

始業式の話は、オリンピックを話題に取り上げました。この夏を盛り上げてくれたパリオリンピックでしたが、日本選手がとても活躍してくれました。柔道から始まって、馬術、レスリングなど伝統的な競技での活躍もありましたし、スケートボード、ブレイキンなど新しい種目でも活躍していました。その中から卓球と体操の2種目で私が学んだことをこどもたちに話しました。詳しくは「虫眼鏡」の全文をお読みください。

卓球は、早田ひな選手の銅メダルについてです。早田選手は大きなけがをしながらも、準決勝で世界ランク1位の選手に挑み、3位決定戦では痛みを苦しみながらもラケットを振り続け、見事に銅メダルを獲得したのです。そこには、周囲の人たちの手厚いサポートがあったといいます。チームとして早田選手を支えた人たちの存在が彼女の銅メダルにつながったのです。チームとしての「和」があったからです。もう一つは男子体操を取り上げました。特別番組になるほどの大逆転劇でした。もちろん、この大会で大活躍した岡 慎之助選手の活躍もあったのですが、そこには、キャプテンとしてチームを引っ張った萱 和馬選手の存在があったのです。選手としてはエースではないものの、その気迫でチームをまとめ、「和」を大切にしていきました。彼の存在があったからこそその逆転金メダルだったのだと思います。

2学期は、運動会がない分、緩やかなスタートです。言い換えれば、いつまでたっても気分が乗らなかったり、目標が定まらずに時間を無駄にしたりすることがあるかもしれません。(裏面へ続きます)

だからこそ、自分たちの学級の「和」を大切に、お互いに励まし合い、高め合うことをこどもたちに示したのです。大切なことは、「自分は一人ではない」ことを実感すること、そして、自分の可能性を信じることです。子どもたちはよくわかってくれたようでした。

始業式でのこどもたちの真剣なまなざしに、あらためて、本荘っ子たちのよさを感じることができました。2学期もスタートダッシュが大切です。皆様のご理解ご協力をお願い致します。(校長)

校長先生の虫眼鏡「始業式のお話 チームの和について」

始業式の校長講話です。ご家族でお読みください。

おはようございます。みなさんが元気に2学期を迎えられて本当に嬉しいです。楽しい夏休みを過ごすことはできましたか。終業式の日、校長先生がお話したことを覚えていますか？こうお話したのですよ。

「明日からは夏休みです。頼りの先生はいません。自分で「よく学びよく遊べ」を実践していかないといけないのですよ。遊びすぎてもだめです。ちゃあんと宿題はできましたかね。校長先生もがんばりました。

①本を読んで勉強する。15冊以上読みました。まだ読みかけの本もありますけどね。

②運動をしました！夏休みは自転車での出勤もしましたよ。運動は大事です。

③家のことをきちんとしてました。お庭をきれいにしたんですよ。

さあ、みなさんはどうでしたかね。後で担任の先生に聞いてみようと思います。

この夏は、なんといってもオリンピックでしたね。東京オリンピックが3年前にありました。校長先生が本荘小にやってきた年です。その時もそうだったんですが、今回も日本選手の活躍はすごかったですね。金メダルもなんと獲得した数が3位でした。世界のいろいろな国が参加している中での3位ですよ。すごいことです。いろいろな競技の選手ががんばりましたが、校長先生が印象に残っている選手を紹介しますね。

この人、わかりますか？卓球の早田ひな選手です。いまや日本のエースなんですが、数年前までは、そこまで目立った選手ではなかったのですよ。でもね、地道に努力をして日本卓球チームのエースになった選手です。早田選手は個人戦では銅メダルだったのです。しかし、校長先生は、彼女はただの銅メダルではなかったと思うのです。彼女は個人戦の準決勝の前日に左手を負傷しました。けがは、想像以上に重いものでした。一人ではお風呂に入ったり、髪を乾かしたりすることもできなかったということです。しかし、まわりの人たちの支えもあって、3位決定戦に向かいました。けがに負けずに懸命にラケットを振った早田選手は、勝利をおさめ歓喜の涙を流しました。彼女はこう語りました。

「朝の4時までケアしてもらうなど、まわりのみんなが自分の体力や睡眠を削ってでも私に時間を使ってくれた」「金メダルを取るよりも銅メダルを取るのほうが私にとっては価値があった」とまわりの人たちの支えに感謝していました。そして、「試合をしているときはとにかく楽しくて、卓球ができる幸せを感じた」と喜びを語った早田選手は、まわりの人たちとの「和」によって大切なメダルを得ることができたのです。

もう一つは体操競技です。大逆転の金メダルだったのでニュースとかでも取り上げられたのです。みんなも知っているかな。

体操競技で活躍したのは、初出場、20歳の岡 慎之助選手でした。大逆転の末、団体戦で金メダル、また、個人総合でも金メダルでした。さらには種目別の平行棒で銅メダルを獲得後、最後の鉄棒で金メダルを掴み取り、出場した全ての種目でメダルを獲得しました。すごかったですよね。彼も、2年前には右膝の大けがに見舞われ、大きな試練に直面していたのですが、目標を見失わずに体操にうちこみ、見事に体操競技3冠達成という偉業を成し遂げたのです。

しかし、日本チームは簡単に大逆転をしたわけではありませんでした。逆転をすることができたのは、チームのキャプテン、萱 和馬選手がいたからです。エースの橋本選手や谷川選手がミスをして、チームに嫌な空気が流れた時がありました。そんな時でも、キャプテンの萱選手がオリンピック初出場の岡選手や杉崎選手を励ましたり、勇気づけたりしている場面がよく見られました。チームの仲間に『自分を信じるんだぞ』といった声掛けもやっていました。そして、自分自身の演技も抜群の安定感でミスなく演技を披露すると、大きくガッツポーズ。仲間に勇気を与えたのです。

萱選手に続くように他の選手たちもガッツポーズを作り、金メダルへの想いをつなぎ、苦しい状況でも踏ん張ったのです。

強いチームというのは、チームがまとまってないといけないのです。チーム全員が声を出すなど、誰でもできることを徹底的にやっているから強いのです。すばらしい金メダルだったと思います。

二つの競技を紹介しましたが、共通するのは、一人では何事もなしえることはできないということです。仲間がいて、仲間を信じて、お互いに励まし合う。そんな「和」の心が勝利や成功を呼び込むものなのです。あなた方の周りにも仲間がいますよね。2学期は、その仲間たちとぜひとも各学級を盛り上げてほしいと思います。

仲間がいるから、笑顔になれるし、仲間がいるから自分の力を高めることができるのです。そして、まずは9月も思いやりの心で笑顔の本荘小にしていきたいと思っています。がんばりましょうね。校長先生のお話を終わります。